

「ナニワの発明家」「命を守る」を テーマに水処理・防災製品を開発

海外
発注可
オンリー
ワン技術



モノレール式汚泥（おでい）かき寄せ機

業務内容 水処理と 防災事業を柱に成長

「命を守る」をテーマに、水・人・地球などの課題に取り組む同社の主力事業は水環境事業で、上下水道施設の水処理機械を設計・製造、販売する。沈殿池に発生したスカム（汚物）を排出する「フジフロート自動スカム除去システム」をはじめ、その後も画期的な装置を多く開発。さらには藤原充弘社長の「災害に負けない」という強い思いから、人を守るための防災事業へと参入した。

各種防災製品をはじめ、大地震による津波対策のため開発した日本初の鉄骨式津波避難タワーのほか、火山水蒸気噴火対策なども着手。地球を守るための緑化事業にも挑戦している。

強み 水処理製品はシンプル構造で メンテナンスが容易

同社の製品はすべて独自開発したもの。最初に製品化した「フジフロート自動スカム除去装置」はシンプル構造でメンテナンスが容易なのが特徴だ。このシンプル志向がその後の開発方針となった。同装置は平成26年に北米最大級の下水処理場に納入。さらに同国で別の案件も出てきたほか、米国や東南アジアなど海外の商談も進んでいる。

「モノレール式汚泥（おでい）かき寄せ機」は沈殿池の池底に1本のレールを設置し、その上を数枚のかき寄せ羽根を取り付けた車上機が往復するシンプルな仕組みで、地震の影響が少なく工期も短い。これらの特徴により、同社の礎を築く製品に育った。

防災事業 津波避難タワーで 命を守る

同社が開発した日本初の鉄骨式津波避難タワー「タスカルタワー」は、京都大学防災

研究所の実証実験に基づき、「漂流物回避」を目的とした柱の配置を特徴としており、津波の襲来・引き波方向に複数の柱のうち1本を前面設置し、その前に緩衝杭を設ける二重防御で津波漂流物の衝撃を軽減する。平成16年に日本で初めて設置後、東日本大震災で自治体や市民の意識が高まり、設置数は全国に46基（平成29年11月時点）にのぼる。

また河川洪水対策用「ワイヤーゲート」、火山などの噴火対策用「火山シールド」、有事の際のミサイル落下対策用「ミサイル破片対策簡易シールド」も製品化した。

今後の展望 人工雨雲発生装置など 産官学で実現

水処理事業ではより省エネ化を図り、防災事業では各自然災害に対し「命を守る」を最優先に製品を開発、改良していく。

干ばつなどの気象災害の軽減を目指し、古来の山上で薪を燃やし雲を発生する雨乞いの儀式を現在の知恵と技術でやってみようと「人工雨雲発生装置」を考案。降雨実験を実施したり、火山の水蒸気・マグマ噴火などの軽減対策をしたりするなど産学連携で実現を目指している。また、大阪府消防局の制作協力で開発した水災害体験装置は、集中豪雨や河川の氾濫による水害の怖さを安全に体験してもらい災害防止の啓発に役立っている。



津波避難施設
（タスカルタワー-A）



（左）人工雨雲装置 （右）浸水・水圧体験装置

当社の歴史



発明で世の中をよくしたいという思いで、昭和55年に37歳で「フジワラ産業」を創業しました。出身地の岡山県備前市は陽明学者で日本初の環境学者と言われる熊沢蕃山（ばんざん）が治山治水の実践に取り組んだ地。自身も何か人のために役立ちたいと思い、「命を守る」をテーマに災害対策や水環境の課題に取り組んでいます。

代表取締役社長 藤原 充弘さん

<http://www.fj-i.co.jp/>

主な事業内容

上下水道の水処理設備および
防災製品の設計、製造、販売

主な取引先（納入先）

地方公共団体、日本下水道
事業団、プラントメーカー、
コンサルタント

●住所

〒550-0024
大阪市西区
境川1-4-5

●TEL

06-6586-3388

●FAX

06-6586-1177

●創業

昭和55年4月

●設立

昭和55年7月

●資本金

3,000万円

●従業員

41名

全国
28